



2023年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2023年7月31日

上場会社名 鳥居薬品株式会社 上場取引所 東
コード番号 4551 URL <https://www.torii.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松田 剛一
問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部長 (氏名) 高島 幸宏 (TEL) 03(3231)6811
四半期報告書提出予定日 2023年8月1日 配当支払開始予定日 2023年9月5日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第2四半期の業績 (2023年1月1日～2023年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第2四半期	25,699	11.2	1,510	△43.7	1,543	△37.5	1,086	△41.1
2022年12月期第2四半期	23,102	—	2,682	50.0	2,468	33.3	1,845	48.3

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第2四半期	38.68	—
2022年12月期第2四半期	65.69	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第2四半期	131,670	118,666	90.1
2022年12月期	133,689	119,224	89.2

(参考) 自己資本 2023年12月期第2四半期 118,666百万円 2022年12月期 119,224百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	24.00	—	76.00	100.00
2023年12月期	—	50.00	—	—	—
2023年12月期(予想)	—	—	—	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年12月期の業績予想 (2023年1月1日～2023年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	52,700	7.8	4,100	△26.0	4,400	△20.5	3,100	△21.4	110.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※上記のほか、決算及び業績予想に関する参考情報を、別途「2023年12月期第2四半期決算 参考資料」に記載しております。

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期2Q	28,800,000株	2022年12月期	28,800,000株
② 期末自己株式数	2023年12月期2Q	694,642株	2022年12月期	701,362株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期2Q	28,101,092株	2022年12月期2Q	28,094,741株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載しております業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。したがって、実際の業績等は、様々な要素により、これらの業績見通し等とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に関わらず、常に当社が、将来の見直しを見直すとは限りません。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料の4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）業績予想などの将来予測情報」をご覧ください。

（決算説明会内容の入手方法について）

当社は、2023年8月2日（水）にアナリスト及び機関投資家向けの決算説明会を開催する予定です。この説明会で使用した資料、Q&A等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績	2
(2) 財政状態	3
(3) 研究開発・導入活動	3
(4) 業績予想などの将来予測情報	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績

当第2四半期累計期間の経営成績につきましては、以下のとおりです。

	2022年12月期 第2四半期 累計期間 (百万円)	2023年12月期 第2四半期 累計期間 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	23,102	25,699	2,596	11.2
営業利益	2,682	1,510	△1,171	△43.7
研究開発費控除前営業利益	3,266	3,924	658	20.2
経常利益	2,468	1,543	△925	△37.5
四半期純利益	1,845	1,086	△758	△41.1

※研究開発費は、中長期的な成長に向けた積極的な事業投資により大きく変動するため、中期経営計画の利益面における指標は、研究開発費を控除する前の営業利益を計数指標としております。

売上高は、薬価改定による減少があったものの、アレルギー領域、皮膚疾患領域における販売数量の伸長等により、25,699百万円と前年同期に比べ2,596百万円(11.2%)増加しました。

各フランチャイズ領域における主要な製品・商品の販売状況につきましては、以下のとおりです。

- ・腎・透析領域におきましては、「リオナ錠(高リン血症治療剤、鉄欠乏性貧血治療剤)」が3,493百万円と前年同期に比べ260百万円(8.1%)増加しましたが、「レミッチ(透析患者における経口そう痒症改善剤)」は後発品の影響に加えて薬価改定もあり1,366百万円と前年同期に比べ415百万円(23.3%)減少しました。
- ・皮膚疾患領域におきましては、「コレクチム軟膏(外用JAK阻害剤)」は小児向け処方を含む販売数量の伸長により3,570百万円と前年同期に比べ886百万円(33.0%)増加し、「アンテベート(外用副腎皮質ホルモン剤)」は2,086百万円と前年同期に比べ47百万円(2.3%)増加しました。
- ・アレルギー領域におきましては、アレルギー免疫療法のさらなる普及により「シダキュア スギ花粉舌下錠(アレルギー免疫療法薬)」は5,223百万円と前年同期に比べ916百万円(21.3%)増加し、「ミティキュア ダニ舌下錠(アレルギー免疫療法薬)」は4,685百万円と前年同期に比べ689百万円(17.3%)増加しました。

費用面におきましては、売上原価は販売数量が伸長したほか、仕入単価の上昇及び為替影響等により13,770百万円と前年同期に比べ1,720百万円(14.3%)増加し、販売費及び一般管理費は主にライセンス契約一時金の支払により研究開発費が大幅に増加したことから10,418百万円と前年同期に比べ2,047百万円(24.5%)増加しました。

以上の結果、営業利益は1,510百万円と前年同期に比べ1,171百万円(43.7%)、経常利益は前年同期において営業外費用に製造委託契約の解約違約金を計上したこと等により1,543百万円と前年同期に比べ925百万円(37.5%)、四半期純利益は前年同期において特別利益に政策保有株式の縮減に伴う投資有価証券売却益を計上したこと等により1,086百万円と前年同期に比べ758百万円(41.1%)それぞれ減少しました。

なお、研究開発費控除前営業利益は3,924百万円と前年同期に比べ658百万円(20.2%)増加しました。

(2) 財政状態

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末の総資産は、131,670百万円と前事業年度末に比べ2,019百万円(1.5%)減少しました。これは、投資有価証券が6,162百万円、商品及び製品が1,231百万円、原材料及び貯蔵品が717百万円、受取手形及び売掛金が688百万円増加しましたが、流動資産のその他に含まれるキャッシュ・マネージメント・システム預託金が7,233百万円、現金及び預金が1,696百万円、有価証券が1,489百万円減少したこと等によるものです。

負債につきましては、13,004百万円と前事業年度末に比べ1,460百万円(10.1%)減少しました。これは、買掛金が1,158百万円増加しましたが、流動負債のその他に含まれる未払金が1,626百万円、未払法人税等が558百万円、流動負債のその他に含まれる未払消費税等が172百万円減少したこと等によるものです。

純資産につきましては、118,666百万円と前事業年度末に比べ558百万円(0.5%)減少しました。これは、その他有価証券評価差額金が469百万円増加しましたが、剰余金の配当が2,135百万円、四半期純利益が1,086百万円となったこと等によるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、36,490百万円と前事業年度末に比べ8,930百万円(19.7%)減少しました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期純利益が1,540百万円、減価償却費が222百万円、仕入債務の増加額が1,158百万円、長期前払費用の減少額が298百万円となりましたが、棚卸資産の増加額が1,949百万円、売上債権の増加額が688百万円、未払金の減少額が566百万円、法人税等の支払額が1,013百万円となったこと等により1,461百万円の支出となりました。(前第2四半期累計期間は694百万円の収入)

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の売却及び償還による収入が9,500百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入が2,000百万円となりましたが、投資有価証券の取得による支出が10,571百万円、有価証券の取得による支出が6,000百万円となったこと等により5,180百万円の支出となりました。(前第2四半期累計期間は3,581百万円の支出)

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払額が2,135百万円となったことにより2,287百万円の支出となりました。(前第2四半期累計期間は829百万円の支出)

(3) 研究開発・導入活動

当第2四半期累計期間の研究開発費の総額は2,413百万円です。

現時点における主な研究開発の状況につきましては、「2023年12月期第2四半期決算 参考資料」に記載しております。

(4) 業績予想などの将来予測情報

通期の業績予想につきましては、当第2四半期累計期間までの進捗状況等を勘案し、前回発表(2023年2月10日「2022年12月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)」)の予想数値を以下のとおり修正しております。

	2023年12月期 前回予想 (百万円)	2023年12月期 修正予想 (百万円)	対前回予想 増減額 (百万円)	対前回予想 増減率 (%)	(参考) 2022年12月期 実績 (百万円)
売上高	50,900	52,700	1,800	3.5	48,896
営業利益	4,100	4,100	—	—	5,540
研究開発費控除前営業利益	7,630	7,630	—	—	7,201
経常利益	4,400	4,400	—	—	5,537
当期純利益	3,100	3,100	—	—	3,944

※研究開発費は、中長期的な成長に向けた積極的な事業投資により大きく変動するため、中期経営計画の利益面における指標は、研究開発費を控除する前の営業利益を計数指標としております。

売上高につきましては、腎・透析領域において「リオナ錠」、皮膚疾患領域において「コレクチム軟膏」、アレルギー領域において「シダキュア スギ花粉舌下錠」及び「ミティキュア ダニ舌下錠」の販売状況が計画を上回って推移していること等により、前回予想を上回る見通しとなりました。

一方、利益面につきましては、販売数量が伸長するほか、仕入単価の上昇、セールスマックス及び為替影響等による売上原価の増加に加え、売上連動経費及び営業活動経費の増加等による販売費及び一般管理費の増加を見込んでおり、営業利益、経常利益、当期純利益ともに前回予想から変更はありません。

なお、当期の配当金につきましては、1株当たり年間100円(中間配当金50円、期末配当金50円)を予定しており、前回予想からの変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,203	7,506
受取手形及び売掛金	22,865	23,553
有価証券	38,489	37,000
商品及び製品	6,165	7,397
原材料及び貯蔵品	2,804	3,521
その他	12,074	5,098
流動資産合計	91,603	84,078
固定資産		
有形固定資産	2,282	2,190
無形固定資産	517	459
投資その他の資産		
投資有価証券	30,282	36,445
その他	9,003	8,496
投資その他の資産合計	39,286	44,941
固定資産合計	42,086	47,591
資産合計	133,689	131,670
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,584	7,743
未払法人税等	1,120	562
賞与引当金	402	402
役員賞与引当金	14	6
その他	5,099	3,305
流動負債合計	13,221	12,020
固定負債		
退職給付引当金	707	584
その他	535	398
固定負債合計	1,242	983
負債合計	14,464	13,004
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,190	5,190
資本剰余金	6,453	6,460
利益剰余金	108,846	107,797
自己株式	△1,381	△1,368
株主資本合計	119,107	118,079
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	117	586
評価・換算差額等合計	117	586
純資産合計	119,224	118,666
負債純資産合計	133,689	131,670

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自2022年1月1日 至2022年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自2023年1月1日 至2023年6月30日)
売上高	23,102	25,699
売上原価	12,049	13,770
売上総利益	11,052	11,928
販売費及び一般管理費		
販売促進費	653	773
給料及び手当	2,104	2,233
賞与引当金繰入額	380	385
研究開発費	583	2,413
その他	4,647	4,612
販売費及び一般管理費合計	8,370	10,418
営業利益	2,682	1,510
営業外収益		
受取利息	66	134
受取配当金	74	56
その他	8	11
営業外収益合計	149	202
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	182	140
投資事業組合運用損	33	28
解約違約金	140	0
その他	6	0
営業外費用合計	363	170
経常利益	2,468	1,543
特別利益		
投資有価証券売却益	187	—
特別利益合計	187	—
特別損失		
固定資産除却損	0	2
特別損失合計	0	2
税引前四半期純利益	2,655	1,540
法人税等	810	453
四半期純利益	1,845	1,086

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自2022年1月1日 至2022年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自2023年1月1日 至2023年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	2,655	1,540
減価償却費	208	222
受取利息及び受取配当金	△141	△191
支払利息	0	0
固定資産除売却損益(△は益)	0	2
売上債権の増減額(△は増加)	830	△688
棚卸資産の増減額(△は増加)	△195	△1,949
仕入債務の増減額(△は減少)	△164	1,158
未払金の増減額(△は減少)	△1,053	△566
未払消費税等の増減額(△は減少)	△171	△172
長期前払費用の増減額(△は増加)	390	298
その他	△397	△325
小計	1,960	△669
利息及び配当金の受取額	172	221
利息の支払額	△0	△0
事業構造改革費用の支払額	△12	—
法人税等の支払額	△1,426	△1,013
営業活動によるキャッシュ・フロー	694	△1,461
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△10,309	△6,000
有価証券の売却及び償還による収入	11,600	9,500
有形固定資産の取得による支出	△95	△92
有形固定資産の売却による収入	—	0
無形固定資産の取得による支出	△110	△16
投資有価証券の取得による支出	△7,117	△10,571
投資有価証券の売却及び償還による収入	2,064	2,000
その他	385	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,581	△5,180
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△674	△2,135
リース債務の返済による支出	△155	△151
財務活動によるキャッシュ・フロー	△829	△2,287
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,716	△8,930
現金及び現金同等物の期首残高	58,374	45,420
現金及び現金同等物の四半期末残高	54,658	36,490

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下、「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響は軽微です。

(追加情報)

前事業年度において、区分掲記しておりました「流動資産」の「キャッシュ・マネージメント・システム預託金」(当第2四半期会計期間3,983百万円)は、金額的重要性が乏しくなったため、第1四半期会計期間より「流動資産」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「キャッシュ・マネージメント・システム預託金」(前事業年度11,217百万円)は、「流動資産」の「その他」として組み替えております。

なお、「キャッシュ・マネージメント・システム預託金」は、JTグループにおいて国内グループ会社を対象としたキャッシュ・マネージメント・システムを統括している日本たばこ産業(株)への資金の預託です。